

月報 2022 年 2 月 28 日 No.373

2 月号



石城山岳会事務局編集

額 取 山

郭公山 (447m)

萩塚山 (733m)

大津辺山 (777.7m)

尖盛 (922m)

雪の桧山 (992m)

糠馬喰山 (737m)

スキー合宿

雪の万太郎山 (959m)

弥宣の鉾 (655m)

二ツ箭山氷瀑ツアー

西大巔 (1981.8m) スキー・スノーシュー

西大巔スノーハイク (1,982m)

黒佛木 (749.2m)

三郡森（676m）

十石山（718m）

船付山（55.4m）・永崎館山（62m）

額 取 山

2022 年 1 月 26 日（水）

下山田・他 1 名

「額取山へ磐梯熱海登山口からスノーシューで行ってみたい。」と大先輩から声がかかった。あいにく磐梯熱海登山口からは登ったことがなかったので、スノーシューは久しぶりだが行くこととした。登山口は、先週同級生の集まりがあった際、雪があり車ではいけなかったが、除雪はしてあり、登山道も広がったと、先輩が事前調査を話してくれた。登山後は、県民割を利用し、温泉を楽しむこととなった。

7 時いわきを出発、一路登山口へ。出発の準備をするが、久しぶりのスノーシュー履くのに苦勞し、シューを踏んづけ、危なく転倒するところだった。



比較的広い登山道（林道跡）日当たりの良いところは土が見える。1 時間ほどで道標がある広い林道に出る。道標に従い緩い上りになってきた。ここでツボ足が消えた。樹林帯の中で迷うところだ。やがて滝登山口からの道と合流する。さすがしっかり踏み跡がついている。

ここからしばらく尾根道を進み、いよいよ山頂への登りとなる。汗をかき、やっと山

頂に着いたが、霧氷もなく風が強い。写真もそこそこ下山し、風の無いところで昼食とする。

下り急斜面はジグザクに降りる。新雪のため意外に潜る、何度かシューを踏みつけ、転んだり、転びそうになったり、足がガタガタになり、下山後の温泉は別天地で、足をいやすことができた。やっぱり風呂上がりのビールはうまい。



<コースタイム>

いわき 8:00→磐梯熱海登山口 8:50～9:00
→10:08 林道分岐→11:16 滝登山道分岐
→12:54 山頂→14:17 滝登山道分岐
→15:30 磐梯熱海登山口

【文責：下山田】

郭公山（447m）

2022 年 1 月 28 日（金） 太

石城山岳会創立 60 周年記念誌「いわき市とその周辺の山々」に掲載された郭公山（ほととぎすやま）に登った。

アクセスは、記念誌に記されたとおり、県道 35 号（いわき浪江線）で木戸川を渡ってすぐのところ、「←乙次郎 11 km」の案内ある場所で左折、木戸川支流に沿った沢の道を進む。下流の民家前は舗装だが、ほとんどが未舗装。落石のある細い林道である。登山口まで、ほぼ迷うことはないが、分岐が一か所だけある。沢地形のままにまっすぐ奥に進む道、左折気味に小さなコンクリート橋を渡って左尾根を越える道。まっすぐ進むと地デジ TV の「富岡中継局」のある三角点峰（二等三角点、点名「大谷」704.81m）に至る。左折気味に橋を渡ると、カーブミラー脇に「郭公山入口」の案内がある。そこに 1 台くらい駐車できそうだが、ほんの少し先に 3 台くらいの駐車場があるので、そちらに駐車。

「郭公山入口」からはモミの多い尾根地形を東に進む。よく整備され、アップダウンも少ないので快適に歩ける。途中「山頂まであと 1.0 km」、「山頂まであと 0.5 km」案内がある。山頂手前の分岐は、左に登ろう。右は巻き道で、山頂先の小ピークへ続くが、途中のコルから戻り気味に山頂に登ることもできる。

山頂には「郭公山（ほととぎすやま）山頂」と記された標柱が立ち、その前に三等三角点（点名「郭公」447.10m）標石がある。展望は、東側に樹々の枝越しに浪江町の街並み、福島第二原発の建屋、海が眺められる。東側以外は樹木に囲まれ、展望はない。

山頂から東に下ると小ピークに行けるのだが、こちらも展望はない。小ピークで折り返し、山頂巻き道を通して来た道を駐車場所まで戻る。途中、樹々の間から南西に、論陣山のものか、屹兔屋山のものか、電波塔が見えた。

文責：太

タイム

9：25 登山口→9：50 山頂→10：25 登山口



萩塚山（733m）

2022年1月28日（金） 太

萩塚山は、木戸ダムの北西 3.4km、檜葉町・川内村の境界にあり、檜葉町では最高峰。川内村の鬼太郎山とは沢ひとつ挟み、近くにそびえる。いわき市境にも近いので、いわき市全図にも載る三角点峰を登ってみた。

県道 250 号で檜葉町境を越えた 2km 先、木戸川支流の沢に架かる橋のたもとに林道入口がある。地図では、滝ヶ谷林道で檜葉町井出に抜けられ、途中の分岐で右折すれば萩塚山の中腹まで行けるように見えた。ところが、入口から 300m ほどで走行不能なほどに林道が荒廃。車を諦めて歩く。

林道は、沢の水が溢れたらしく、深いところで 2m 以上も路盤が洗掘されていたり、道の真ん中に太い木が生えていたりする。この状況は、原子力災害と、令和元年台風災害の影響だろう。

なんとか林道分岐までたどり着くが、林道支線は人の背丈ほどある藪に覆われていた。半分ほど支線を歩くが、林道支線とはいえ、あまりの藪。手近な尾根に取りついて、藪漕ぎ直登に切り替える。

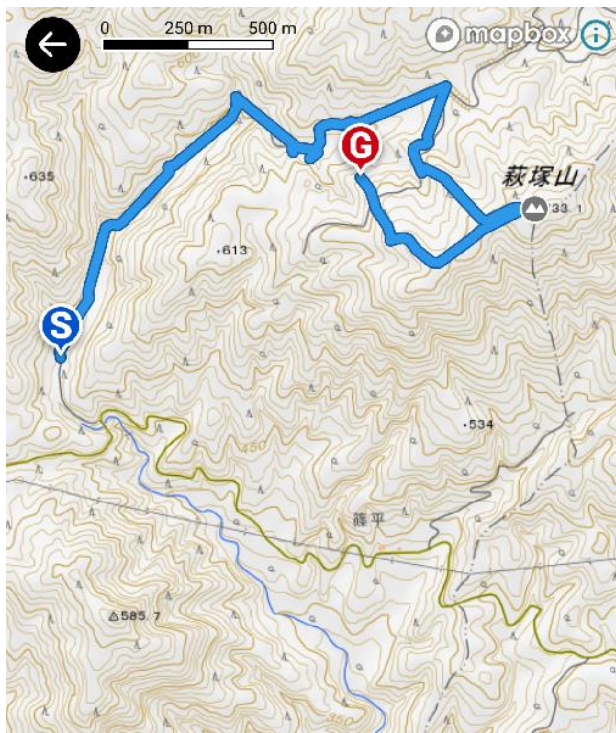
大尾根にまで登ると藪はなくなり、土望らしきものがあった。大石も多少あるが、巨石というほどではない。ひどい藪漕ぎが嘘のように、落葉樹林の中を楽々と登ると、やがて山頂。三等三角点（点名「萩塚」）733.10m）標石の傍ら、樹木には目印のピンクテープが巻かれていた。なだらかな林の山頂なので、展望はない。

下山は、「どうせ藪漕ぎするなら」と支線を諦め、地図を頼りに最初の林道に向かって藪漕ぎ。林道に出合うと、再び深く挟まれた道に苦労しながら駐車地点に戻った。

文責：太

タイム

11：45 駐車地点→12：25 林道分岐→13：00 山頂→13：30 林道出合い→13：50 駐車地点



大津辺山（777.7m）

2022年1月28日（金） 太

大津辺山は、鬼ヶ城山の東北東5km、川前町下桶売字荻なら東3kmにある川内村の山。ほとんど市境の山であり、川内村からの川前町小白井経由で帰る際、立ち寄った。

県道36号から登山口へアクセスする場合、上川内字綱木付近で小白井川を渡って、村道綱木線で字小笹目へ向かう。つきあたりを右折して赤原遠山林道を峠まで登ると、その付近に登山口がある。当日は、思いのほか雪が積もっており、林道はスピードを出すとスタッドレス四駆でも横滑りしそうだった。

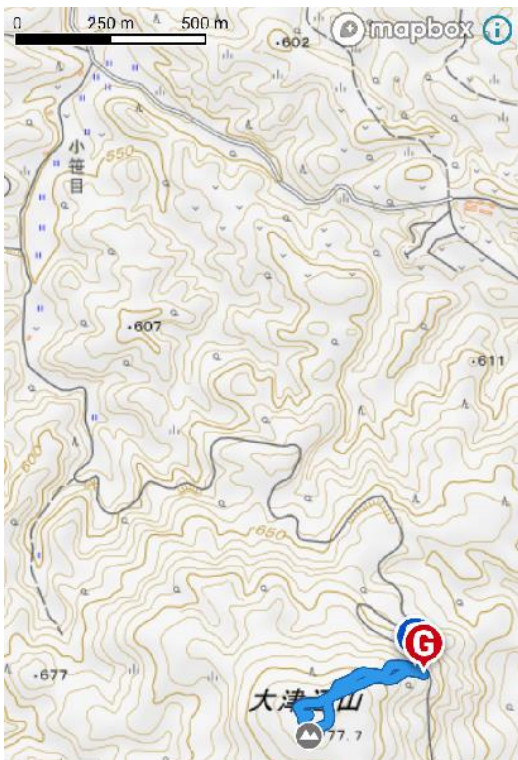
路肩に駐車して、林道から斜めに戻るように登山道を登り始める。道幅が少し広いので、登山道というよりも、何かの作業道のような。植生は、比較的若い落葉樹が多く、用材伐採後の再生林だろうか。上へ行くと少し広い笹原もあった。

笹原の奥、山頂は、樹木の中、少し高い場所だった。二等三角点（点名「遠山」777.72m）標石があり、傍らに「大津辺山△778m」と書かれた手製の山名板があった。残念ながら展望がないので、それらを写真に収め下山。雪の林道を慎重に下って帰宅した。

文責：太

タイム

15:20 駐車地点→15:38 山頂→15:50 駐車地点



尖盛（922m）

2022 年 1 月 30 日（日） 太

田村市と川内村との境の山、尖盛（とげのもり）。雪の藪を登った。

県道 112 号の峠に、航空自衛隊大滝根山分屯基地への専用道路の入口がある。尖盛は、その入口の反対側にある。正式な登山道はないらしく、市・村境の土塁に沿って直登する。峠から登るので標高差は少ない。少し登ると背丈ほどの藪の急登。一步ずつ登るたび、笹の葉に付いた粉のような氷が頭に降ってくる。樹林を揺らす風も冷たく、急登なのに体が温まらない、指も冷たい。どうせ高低差も行動時間もたいしたことないのだから、撤退して別の日に登ろうか、などと考えがよぎった。

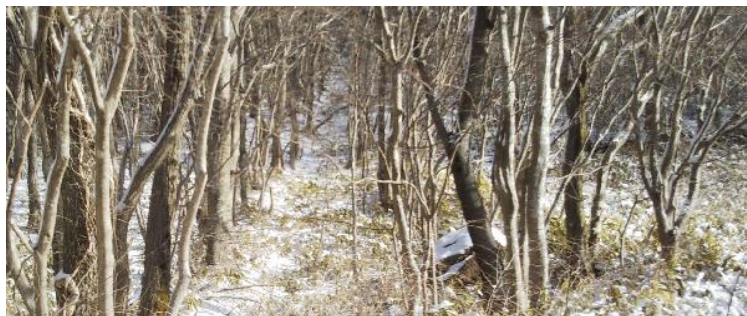
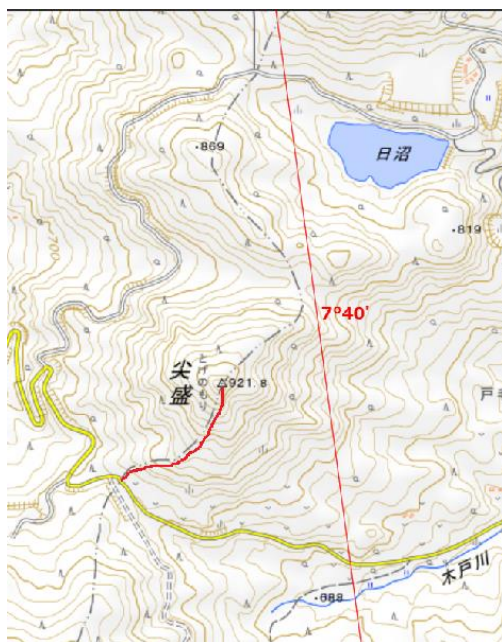
なんとか山頂に着いたが、それなりに藪。少し太いマツが 2 本あって、奥の方、ツタの絡んだマツの辺りが最高地点。そこに立つと、足にぶつかる硬い物がある。つま先で雪を除けると三角点標石だった。寒さでボウとしながら、標石（三等三角点「榎ノ森」921.84m）、周囲の樹林・藪を撮影した。

下山は、登ってきたルートを文字通りそのまま。雪を払い除けた藪を目指し、自分の足跡を確認しながら、2 度ほど転びながら一目散に車に戻った。

文責：太

タイム

8：10 県道 112 号→8：55 尖盛→9：15 県道 112 号



雪の桧山（992m）

2022 年 1 月 30 日（日） 太

旧「うつくしま百名山」である桧山に田村市常葉町堀田の J Power camping ground から登った。

県道 112 号線の川内村との境界近くに、桧山高原への入口がある。かつて桧山高原は、牧場のほかキャンプ場、遊歩道が整備されていた。現在は主に風力発電所敷地になっているが、Google 地図で見ると、J Power camping ground と表示されるので、キャンプ場等としては現在も利用されるようだ。

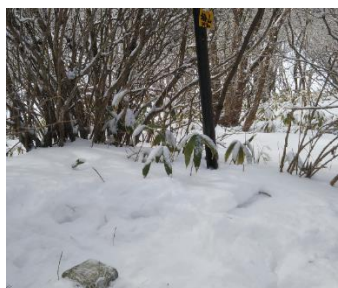
県道から桧山高原への道は、数日前からの雪がかなり積もっており、車を走らせたときは、タイヤの轍がひとつもなかった。慎重に運転して登り、高原の池のほとり、キャンプ場の管理棟とトイレの間に駐車した。風車の巡視路で山頂近くまで車が行けるが、吹き溜まりに突っ込むと、立ち往生しかねないので、そこからは歩きにした。凍った池の堤を渡って直線的に山頂を目指そうとしたが、いきなり踝までの雪。パウダースノーが強風で飛ばされ、あちこち吹き溜まっていた。途中から巡視路を辿ったが、山頂周辺は膝までの雪。なんとか山頂の石碑、少し離れた山名板までたどり着く。三等三角点（点名「檜山」992.10m）標石は埋まっていたが、探り当てて掘り出す。写真に収めてから、急いで下山。

下山は、できるだけ風景を楽しむ。冷たい強風に遭ったが、冬の晴天ならではの透明な空気で、阿武隈の様々な山々が眺められた。特に緩やかな牧場地形に広がる雪原の向こう、すぐ近くに大滝根山、その反対側に特徴ある山容の常葉鎌倉岳。止められていた巨大な風車も、広大な場所に建っているので、遠くから見たときのように気にはならない。なかなか雄大な景色に満足した。

文責：太

タイム

9：35 キャンプ場管理棟前→10：11 桧山山頂→10：50 キャンプ場管理棟前



糠馬喰山（737m）

2022年1月30日（日） 太

糠馬喰山（ぬかまぐらやま）は、地理院地図で川内村を見ていたときに見つけた。Google 地図で見ると、山頂の神社が「八幡神社（糠馬喰山）」で、登山口も表示される。桧山に行った帰りに立ち寄り、上川内下原から登った。

県道 112 号から 50mほど入った場所が Google 地図で表示された登山口。その場所には、「糠馬喰山（標高七四〇m）八幡神社参道」と記されたプラスチック製の案内板がある。その 90m先に道路が少し広い場所があったので、駐車させてもらう。

戻って参道を上ると、短い杉並木のような場所に最初の鳥居。鳥居の額に「八幡神社」とある。その先、分岐で民家裏の畑に上るよう進むと、林道になる。林道の坂を登り切る手前、左側に先ほどと同じプラスチック製案内板があり、ここから山道に入る。マツ林の中に赤い鳥居が現れてから道が荒れ気味で、ところどころ急となる。急登が終わる頃、斜面に突き出た巨石の展望台に出会う。足下に集落、目の前に高塚山、大滝根山が迫り、右に目を転ずると梢の先に尖盛、桧山が望める。良い眺めだ。

さらに少し登ると、マツ林の中に赤い屋根の八幡神社が現れ、山頂。巨石を守るかのように社が建ち、軒先には「糠馬喰山 737m」と白く刻まれた山名板が取り付けられている。

ひと休みしてから、もう一つのピークに向かう。神社ピークほどではないが、様々な大きさ、形の大石が点在し、展望はないが少し楽しめる。神社に戻ると、参道を下って帰路についた。

文責：太

タイム

11:25 登山口→11:35 赤鳥居→11:45 見晴らし岩→11:55 山頂（八幡神社）
→12:05 別ピーク→12:10 見晴らし岩→12:20 赤鳥居→12:30 登山



スキー合宿

Vol.3 2022年1月31日(月)～2月1日(火) (猫魔・雄国山、猪苗代)

参加者：下山田、秋葉、栗崎（透）、栗崎（容）、山中

Vol.4 2022年2月7日(月)～8日(火) (夏油高原)

参加者：下山田、秋葉、菅野、栗崎（透）、栗崎（容）、山中

Vol.3

1月31日 猫魔・雄国山

先シーズンの3月にも登ったルートになります。登る前にビーコンのセット確認をして出発です。猫魔スキー場のリフトを2基乗り継いでグレンデトップから登り始めました。2月の雪質は3月のとは違い沈み込みやすいです。したがって足にも負荷が掛かりやすく疲れ、転ぶと起き上がりにくかったです。コースを間違ってしまうと樹林帯を抜けると雄国沼を横切ることになりました。雄国沼は当然凍っていて沼上を横断しました。雄国沼休憩舎で昼食をとり雄国山に向かいます。前回は雲もなく見晴らしが良かったのに今回はイマイチ。雄国山山頂から下りが続き、途中一度シールを付けての登りが少しあってからまた下りになります。最後に樹木の間隔が狭い急斜面を降りて終点です。けっこう時間がかかり疲れました。

宿はBIGBEARで自炊泊です。栗崎シェフ特製の猪シチュー、大変美味しくいただきました！！



2月1日 猪苗代スキー場

この日は天候があまり良くなくスキー登山は中止になり、猪苗代スキー場でのグレンデトレーニングに変更になりました。前日の疲れもあり早めにスキー場を後にしました。

Vol.4 夏油高原スキー場

2月7日

いわきから車で約4時間、岩手県にある夏油高原スキー場が今回の合宿地になります。このスキー場にはツリーランエリアがあり、普通のスキー場では滑走禁止の樹林エリアを滑ることができるのです。

初日はゴンドラが動く前にスキー場に到着しました。雪の量は猪苗代とは違います。平日はゴンドラが一基しか動いておらず滑走できるエリアが限られてしまっていますが、それでも滑りごたえがあります。まずはグレンデを滑りますが前日夜に降った雪で新雪状態です。板が雪にもぐり込みやすく操作

が簡単にはいきません。でも、なかなか味わえない雪質です。おもしろい！！ゲレンデを滑った後は
 いよいよツリーランエリアです。ゲレンデの途中からツリーランエリアに入ります。スキー板が雪に
 沈み込む雪質です。躊躇せずにどんどん向かっていかないと止まってしまいます。傾斜がある斜面の
 方が滑りやすいです。菅野さん曰く、誰も滑っていなくトレースが無い方が滑りやすいとのこと、な
 るほどです！！新雪スキーのトレーニングになりました。午後からはガスと強風で視界が悪く早めに
 切り上げました。

宿はスキー場隣接のスキヤーズベッドです。大展望露天風呂付ですが、雪が積もっていて展望で
 きませんでした。夕食までまだ時間がありましたが、もちろん恒例の反省会？？？が始まりました。



2月8日

曇りですがまずまずのコンディションです。ゲレンデからツリーランエリアを滑りました。容子さん
 が転んだ際にストックが雪に沈んでしまい見つからず諦めるアクシデントもありました。ツリーラン
 エリアはおもしろいです。スキーで登らなくてもツリーランエリアで山スキーが楽しめるスキー場は
 楽でありがたいです。来年のスキー合宿地に引き続き決定しました。

(文責：山中)



猫魔・雄国山 スキー登山



夏油高原スキー場

雪の万太郎山（959m）

2022年2月12日（土） 太

万太郎山にある和田山観光牧場（地理院地図では阿武隈高原牧場）跡地へ仕事で何度か行ったことはあるが、万太郎山の山頂を踏んだことがないので、三角点を踏みに行った。

牧場跡地へは、田村市との市境に近い、県道36号の川前町小白井字下岐にある採石場の入口から登る。道は採石場の大型ダンプカーが通行するので、車の運転には注意。登る途中に2、3か所分岐があるが、すべて左を選択しないと採石場へ入ってしまう。（実は登った当日、うっかり採石現場に迷い込んでしまった。）大型機械が稼働しており、「発破注意」看板があるように、非常に危険である。

牧場跡地の道は荒れており、畜舎等への道も藪になっているが、風力発電所用に整備された道へと続いている。発電所への分岐付近など適当な場所に駐車して風車巡視路を歩くとよいだろう。

山頂へのルートは、巡視路カーブ地点から下るように樹林の中に入る。当日は前々日の雪で登山口案内が埋まり、赤テープも見落とし、しばらく迷って藪漕ぎ。なんとかルートを見つけたが、迷っている間も、見つけてからも、長靴を越える深さの雪に悩まされる。山頂の巨石が見えたときはホッとした。

山頂は、巨石脇の樹木には「万太郎山△959m」の山名板、三等三角点（点名「和田山」959.04m）標石脇には山名板と三角点名板がある。雪で滑りそうなので巨石に上るのは止めておいた。

下山は、再び膝までの雪に苦労しながら、駐車した場所に戻った。

文責：太

タイム

10:20 駐車地点→10:55 登山口→11:20 山頂→11:40 登山口→12:10 駐車地点



弥宣の鉾（655m）

2022 年 2 月 12 日（土） 太

地理院地図で見つけた川内村上川内の「弥宣の鉾」に登った。（※ネギは、「禰宜」や「祢宜」でなく、地理院地図の表記まま。もともとの山名は、ホコと相まって神事に由来するものかもしれない。）

主な登山口は、字緑（川内中学校の北対岸）と、字小山平（川内村総合グラウンド付近）。ほかに字炭焼場（いわなの里付近）から山頂近くまで林道がある。最短で、眺望のありそうな字緑から登った。

木戸川に沿う国道 399 号のカーブミラーがある場所、落石防護柵の端から登り始める。付近に案内板はない。尾根に取りつくと、電力・辺栗線の電柱 No8 が立っている。登山道は、電力線の下を登っていくもので、電柱でいうと No8 から No40 までを登る。

電柱 No14 付近から傾斜が急になり、振り返ると、万太郎山に続く風車群が遠く望めるようになる。さらに進むと、大岩を踏み越えたり、屏風のような巨石の脇を登ったりする。

山頂の電柱は No40。フェンスに囲まれたデジタルテレビ中継局「双葉川内局」の傍らにある。三角点（三等「根木ノ鉾」654.51m）標石は、奥の一段高い電波施設のフェンスの前。脇の雑木に「弥宣の鉾△655m」と書かれた山名板が架かっている。奥へ少し下る作業道らしきものは、電波施設の管理道で、林道を経由して麓に続くものであろう。山頂は樹々に囲まれているため、辺りを見回しても、登ってきた方向以外には見晴らしはない。下山は、登ってきた道をそのままに戻る。途中、川内村総合グラウンド方向に突き出た小岩峰に立ち寄って、尖盛や桧山を眺め、国道 399 号に下りた。

文責：太

タイム

12：40 登山口→13：35 山頂→14：35 登山口



ニツ箭山氷瀑ツアー

2022年2月12日(土)

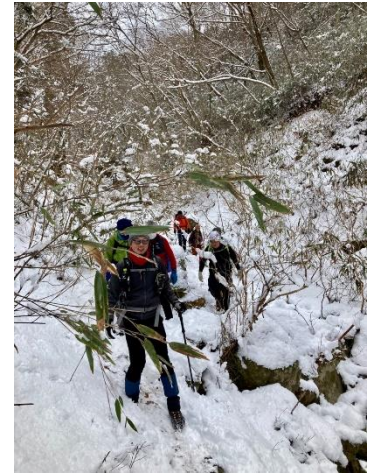
参加者：秋葉、小谷野、栗崎（透）、栗崎（容）、吉田、那須原、国井、安部、山中

当日の仕事の予定が空いたので参加させていただきました。ニツ箭山入口駐車場に集合してから車2台に分乗して桐ヶ丘林道沿いにある沢沿いから登り始めました。当然一般的なコースではありません。前日に降った雪が残っていますが軽アイゼンを付けて登れば問題ありません。しばらくすると二階滝になります。ここはまだ目的地ではありません。足場が悪いので秋葉さんが先に行ってロープの支点を取り、後からみんながロープ伝って登りました。恒例の藪漕ぎをしてようやく登山道にでました。ニツ箭山山頂には寄らず、沢コースを下りました。修験台を過ぎて急登を下ると目的の氷瀑です。普段の水量が少ないことでこの時期に沢水が凍って氷瀑になるそうです。いわきで雪山山行ができ氷瀑が見られたことに感激しました。

[タイム]

桐ヶ丘林道8：45→二階滝9：10→修験台11：05→氷瀑11：15→入口駐車場13：00

(文責：山中)



西大巔（1981.8m）スキー・スノーシュー

2022年2月13日（日）

参加者：下山田、秋葉、菅野、栗崎×2、太、山形、柏村、
菊池、野木、山中、猪狩、佐藤、須藤、安部

2月の登山教室は会としては中止となりましたが、個人山行として 2月13日（日）西大巔スキー・スノーシューに行ってきました。



西吾妻山、西大巔は積雪量が多く樹氷が見られる山です。今回の山行で初めて樹氷を見ることが出来ました。また、天気も良く素晴らしい景色を見られました。

グランデコスキー場よりゴンドラリフトに乗り、スキーとスノーシューにて西大巔を目指しました。その中で教室生5人のうち4人はスノーシューで参加しました。

山岳会の菅野さんを講師としてスノーシューでの歩き方、雪山登山の仕方を教えて頂きました。スキー場のような圧雪は歩き易いですが、それ以外の場所の未圧雪や深雪はとても歩きづらく、まして傾斜地ともなると全然前へ進めません。ふかふか雪の上りはとてもきついです。が、下りは転んでも衝撃は緩和され、子供のように楽しめました。（安全に気を付けた範囲内です。）また、下山途中でそり滑りを楽しんだ方も

いました。今回は、雪山での歩行の楽しさと難しさ、雪山ならではの景色（樹氷）のすばらしさを堪能出来た山行でした。企画して頂いた方々、ありがとうございました。また、菅野さんご指導ありがとうございました。

コースタイム

グランデコ駐車場着 8:00→スキーセンター8:30→ゴンドラリフト
8:40→ゴンドラリフト頂上駅、スノーシューによるグレンデ歩き開始
9:05→途中未圧雪箇所での歩き方研修→登山口着 9:45→森林
帯での登山開始→西大巔頂上着 11:45→ 昼食→下山開始 12:20
→登山口着 13:40 グレンデ歩き→ゴンドラリフト頂上駅着 13:55
→休憩→ゴンドラリフト乗車 14:05→スキーセンター着 14:20→
駐車場 14:40



（文責：安部）

西大巔スノーハイク（1,982m）

2022年2月13日(日)

参加者 教室生5名 山岳会 10名

本来は2月の登山教室でしたが、新型コロナウイルスにより個人参加での山行になりました。スノーシュー組9名(1名ワカン)、スキー組4名、グレンデスキー組4名での行動です。

8時半に運行開始のゴンドラに10分ほど並んで乗り込み、一気に標高1,390m付近まで登ります。ここからは登山口までグレンデ歩きでしたが、今回が初めてのスノーシュー歩きだった私には延々と続くグレンデの急斜面がとても歩きにくく、ここから先を大変不安に感じたのでした。ヒイヒイ言いながら40分ほどで登山口に到着、ここからようやく山歩きです。

トレースを辿りながら樹林帯を進みます。後に、トレースというものがいかに有難いものなのか思い知らされる事になりますが、この時はまだ気づいていません。途中からモンスター達が出迎え始めます。この日は天気到大変恵まれ、風もなくあたたかで周りの山々も良く見えました。

進むにつれて頂上に向けての傾斜きつい直登のトレースが見えてきました。教室生はトラバースしながら行くとので直登組とは一旦別れ、菅野さんサポートの元、ルートを見極めながら交代でラッセルしながら進みました。私以外の3名の方が代わるがわるラッセルする中、全く進まない私。滑って登れずに膝を付くと、起き上がれません。菅野さんがストックを私に向けて差し出し、起き上がらせようと手を貸して下さいましたが、それでもなかなか立ち上がれなかったのです。結局ラッセルせずに何とか頂上に辿り着きました。大変思い出深い山行になりました…。

ゴンドラ 8:40 → 登山口 9:40 → 山頂 11:45~12:20 → 登山 13:40 →
ゴンドラ頂上駅 13:55~14:05 → スキーセンター 14:20

文責：須藤



黒佛木（749.2m）

2022年2月19日（土） 太

黒佛木（くろぼっけ）は、川前町下桶売字志田名の東 2.8km、いわき市境からは約 280mにある川内村の山である。三角点峰であり、地図に名前も載っていたので、登ってみた。

川内村下川内の、字三ツ石から字バクまで抜ける道の峠、カーブミラーのある場所に林道入口がある。当日は 20 cmの積雪で、とても林道には入れない。入口付近に駐車、念のためワカンを装着。

イノシシ箱ワナが置かれた入口から少し進むと、左側斜面杉林に、間伐材を利用した土止めがたくさん設置されていた。山林除染、放射性物質流出抑制工事の施工箇所だろう。さらに進むと林道は背丈ほどの笹藪で、倒木もちろほら。ワカンを装着したままでの藪漕ぎはつらい。地図で半分ほど林道を歩いたが、あまりに藪なので、手近な尾根に取りついて登る。

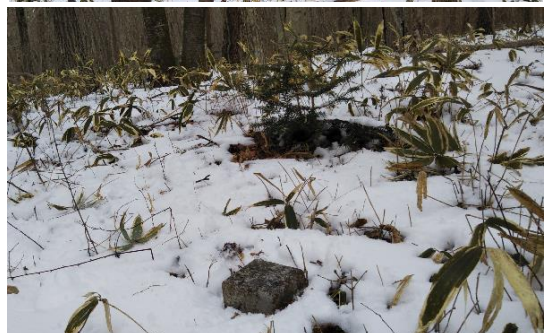
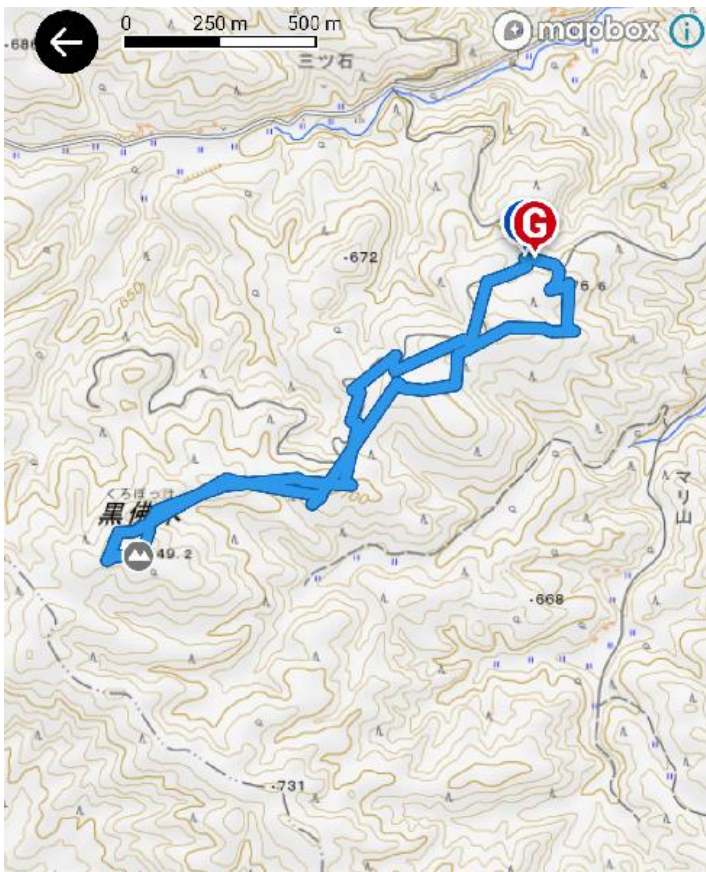
尾根は、積雪のお蔭で藪の濃淡が分かりやすく、笹の薄い場所を選んで比較的楽に歩くことができた。落葉樹林の中、少しのアップダウンを経てやがて山頂。山頂は、なだらかな雑木林で、展望はない。山名板もなく、三等三角点（点名「黒山」749.23m）標石があるだけだった。

下山は、登りを反省して、地形図を頼りに尾根を歩いた。途中、四等三角点（点名「柏」676.59m）に立ち寄ったが、標石は見つけれなかった。林道入口の駐車地点から少し下、別のカーブミラー地点で道に出て無事に下山。

文責：太

タイム

9：30 林道入口（駐車地点）→10：45 山頂→12：10 林道入口（駐車地点）



三郡森（676m）

2022年2月19日（土） 太

三郡森は、田村市、大熊町、川内村、3市町村の境界となっている山である。名前の三郡とは、田村郡、双葉郡のほか、旧檜葉郡を指すものであろう。地図の名前に興味を持った。

川内村下川内の県道 112 号から毛戸ダムを経由し、大熊町野上字旭ヶ丘に入る。川内村境を越えて約 250m の左側、沢の奥へ続く作業道らしきものがある。電力桧山風力線（33kv）の電柱巡視路で、電力線の下を藪漕ぎすることなく、沢の頭・尾根まで登れる。入口付近に駐車して行動開始。

雪が積もった沢を進むと、途中の小屋付近に軽トラ 2 台が投棄されていた。原発事故当時のものだろうか。登りつめて尾根を左に 100m 少しく行くと、土塁に出合う。この土塁が基本的に田村市・大熊町の境界。電力線もこれに沿って続く。展望を期待して、付近で最も高い約 680m 地点を目指し、境界を北へ歩く。680m 地点は雑木林で双葉町、浪江町の山々が梢越しに少し見える程度だった。三郡森を目指して南に戻る。途中で三角点（四等「三郡森」675.28m）の標石を探したが、笹に雪が積もって見つけれなかった。電力線を離れて境界土塁（田村市・大熊町の境界）に沿って進むと三郡森（三郡境）。

三郡森は、濃い樹林の中で、境界土塁が大きく東南東に曲がる地点。旧三郡の境、現 3 市町村の境界地点だが、特にそれを示すものはなく、上部を赤く塗られた山林境界標があるのみ。

せっくなので、大熊町・川内村の境界土塁に沿って下山することにした。濃い樹林で酷い藪はないが、アシビ等が伸びて歩きづらいところがある。最後に杉林を下りて道路に出る辺り、スズランテープが張り渡されていた。表示はなかったが、放射線量が高いなどの理由で立入が制限されていたのだろうか。大熊町が原発事故による直接の被災地であることを改めて思い出した。

文責：太

タイム

14：15 電力線巡視路入口(大熊町)→14：55 三角点付近→15：05 折返し地点(田村市大熊町境)
→15：15 三角点付近→15：30 三郡森（三郡境）→16：00 道路(大熊町川内村境)



十石山（718m）

2022年2月23日（水） 太

十石山は小野町と平田村の境界にある山である。地図で見つけて登った。

平田村側の採石場のほか、道路の町村境界から登るルートも検討したが、Google 地図の航空写真で小野町側からの林道があることがわかり、小野町雁股田字表前から登ることにした。

現地に到着すると、道路拡幅工事と林道工事とが同時施工中だった。一番困ったのは林道工事で十石川を越えて林道に進入できないことだが、次に道路拡幅工事で道路や路肩の広い場所が押さえられて駐車できないことだ。やむなく少し上流の道路路肩に駐車して、林業作業道の橋を渡って杉林に突入する。

薄暗い杉林の中は、下草もなく順調に進めたが、尾根に出ると笹藪だった。藪の中に道跡らしきものがあるので、辿って登る。進んで行くと土塁が現れ、沿って登るといくつかピークを越え、平田村側に視界が開ける場所に出た。見ると採石場の上端に近い場所で、眼下は削られた荒々しい崖、その向こうには、山頂を雪で飾った美しい姿の蓬田岳が目の前に広がる。

その先、土塁が北東に大きくカーブする地点に差し掛かると、小野町と平田村の境界。境界を進むと、北側の杉林の下に雪で白い広場が垣間見えた。麓からの林道の終点、回転広場である。意外に山頂近くまで林道が通じている。

土塁が雑木林の中に入ると、頂上は近い。ピンクテープが巻かれていた場所が見え、行ってみると「十石山△717.7m」と書かれた山名板が下がっていた。周囲の雪を掻き分け、三角点標石を探したが、見つからず、諦めて少し先に進む。

山名板のあった場所同じく少しだけ高い場所に大石があった。祠でもあるかと探すが、特に何もなかったの、下山することにする。

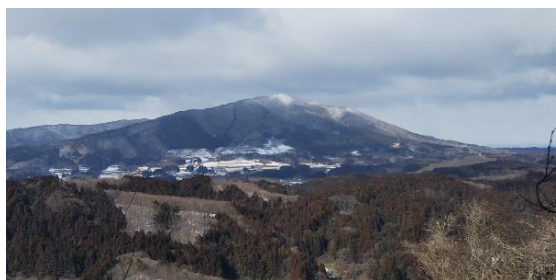
林道の終点が見えた場所まで戻り、杉林を下る。雪の積もった林道に出ると、入口の工事箇所まで道なりに下りた。下山であり、作業の方に声をかけ、工事中だが、通してもらって無事に下山。

文責：太



タイム

9:00 作業道入口→10:20 山頂 10:35→10:50 林道終点
→11:15 林道入口



船付山（55.4m）・永崎館山（62m）

2022 年 2 月 23 日（水） 太

船付山は、いわき市の永崎海岸の北東、永崎字船付にある小高い山。バブル期にはリゾートホテル建設のため敷地造成されたが、ずっと放置されていた。小船溜まりの付近から閉鎖された専用道を登ると、平らな造成地に出る。見下ろすと、海中からそびえる白い竜ヶ崎灯台、砂浜の向こうに「いわきマリンタワー」。海を見渡せる絶好のロケーションである。造成地を横切った先のこんもりとした場所が山頂。山頂に向かって真新しく造成された斜面を登ると、建設機械が稼働中。作業関係者に尋ねると、キャンプ場等を建設するのだと言う。私有地立入を注意されたので、山頂にだけ寄って、県道 15 号（小名浜四倉線）側に下りる。山頂には携帯電話基地局があり、そのフェンス内に四等三角点（点名「竜ヶ崎」55.38m）標石がある。県道に下りると、中之作郵便局、市立江名中学校は目の前。

館山は、中学校（住所：永崎字館 1 番地）の傍らにそびえる。以前に紹介したが、校歌でうたう「紺碧の永崎の海みはるかす館山の高きにたてる学び舎」に迫る崖の山。学校敷地を造成した昔に南西斜面が削られたが、もともとは館跡。頂上を目指して校庭の端、南側斜面の藪を登ると、何段かの平らな場所、曲輪（くるわ）跡らしい場所を越えていく。崖の頂上に立つと、眼下に中学校を見下ろし、海岸・永崎の街並みの向こうにマリンタワー、県境まで望める。目を転ずると県道 15 号を挟み、船付山の向こうに広がる太平洋へとつながる。山頂は崖の頂上の奥。一段高いが、雑木に囲まれ展望はない。頂上から西、校舍裏へ下るコースは、かつて授業やホームルームで利用されたが、藪が濃くなってしまった。北へ進むと、曲輪や空堀の跡らしい場所の先、馬の背になる。さらに進むと、71m の北ピーク。樹木に覆われるが、家庭用 TV 受信アンテナが立つ。電線を辿って東に下ると、字馬落前の舗装路に出てから、県道 15 号の中之作郵便局付近に戻れる。

タイム

14：05 小船溜まり→14：25 船付山→14：35 中学校→14：45 館山→15：05 北ピーク
→15：20 郵便局→15：30 小船溜まり

